38 学級経営心理学研究，2015，4，38 ― 45

【原 著】

小中学校の教員のユーモア行動測定尺度の作成

河村 昭博* 武蔵 由佳** 河村 茂雄***

本研究の目的は，児童生徒の「学校生活を満足させる」ことに寄与する「教員のユーモア」のあり方の検討を試みるために，教員のユーモアに対して児童生徒がどのような認知をするのかを測定する尺度を作成することを目的とした。対象は，公立小学校1校342名（男子181，女子161名），公立中学校1校435名（男子223，女子212名）であった。結果，小学生版，中学生版ともに，「楽しさ喚起ユーモア」「皮肉・風刺ユーモア」「元気づけユーモア」の3因子構造であることが明らかになった。下位尺度の信頼性係数は，小学生用がα=.90～．92であり，中学生用がα=.92～.95であり，尺度の信頼性が確認された。以上の結果から，小学校，中学校における教員のユーモア行動測定尺度が新たに作成された。
キーワード：教員のユーモア，学校生活満足度，小・中学校

【問題と目的】

現在，児童生徒のいじめや不登校，学級崩壊など，不適応行動や問題行動が深刻化しているなかで，文部科学省も平成15年度に「学校教育に関する意識調査」（文部科学省，2003）を行った。それによれば，「学校の生活に満足している」とする小学生は91%，中学生は78%にのぼっている。学校生活の享受感情としては，学級適応および教員適応が要因であることが明らかにされている（古市，2004）。教員の行動は学級の適応にも大きな影響をもたらす可能性を考えれば，児童生徒たちの学校の楽しさに影響を与える要因として，教員の行動は比重が大きいと考えられる。特に，児童生徒が認知する教員のユーモアは，学校享受感に影響を与えること，特に女子児童においては，学校の楽しさは教員のユーモア行動と関連性があり，特に親和的ユーモアは享受感をより高めることが可能であることが明らかにされている（上田・小林，2008；熊崎・山守・五十嵐，2014）。したがって，「教員のユーモア」を検討することは，児童生徒の「学校生活を満足させる」教員の行動の内容を考える上で，大きく寄与することになると考えられる。

上野（1993）と宮戸・上野（1996）は，個人がどのようなユーモア刺激を好み，表出するかを測定するユーモア志向尺度を開発している。この尺度は三つの下位尺度から構成され，攻撃的ユーモア志向では，皮肉やからかいといった攻撃的な形態のユーモア刺激を，遊戯的ユーモア志向では，駄洒落や言葉遊びといった遊戯的な形態のユーモア刺激を，支援的ユーモア志向では，自己や他者を支援するためのユーモア刺激を好み，表出する傾向を測定するものとなっている。他のユーモア尺度に関しては，牧野（1997）が「ユーモア表出行動尺度」と「ユーモア感知行動尺度」という2次元でとらえた検討を行っている。これは，ユーモアの表出や感知によるおもしろさの生起や楽しさが状況に応じて自己や他者に支援的な機能を持つと考えるのが妥当であるとし，上野（1992）のユーモアの3分類から，ユーモアを，ユーモア刺激の性質（遊戯的・攻撃的）と支援的機能（あり・なし）の2次元で捉えている。その結果，攻撃的ユーモアを表出する人ほど攻撃的ユーモアを好んで楽しんでいるなど，表出と感知で対応する因子間に関連があることを明らかにしてい

* 早稲田大学大学院
** 盛岡大学
*** 早稲田大学 教育・総合科学学術院

る。また，海外での代表的なユーモア尺度として，Martin, Puhlik-Doris, Larsen,Gray, & Weir（2003）が，個人のユーモアスタイルを測定する四つの下位尺度から構成されるユーモアスタイル質問紙（Humor Styles Questionnaire）を開発しており，親和的ユーモア（aliative humor）は，主にジョークを言って周囲を笑わせる傾向を，自己支援的ユーモア（self-enhancing humor）は，主にストレスフルな状況で自己を支援するためにユーモアを使用する傾向を，攻撃的ユーモア（aggressive humor）は，主にからかいによって他者を非難し攻撃する傾向を，自己破滅的ユーモア（selfdefeating humor）は，主に過度な自虐を用いて周囲を笑わせる傾向を測定するものとなっている。以上のように，ユーモアについては，態度やスタイル，感受性やセンス等と位置付けて測定するものまで幅広く，それぞれの尺度が扱うユーモアの領域が重複していたり，逆に補いきれていなかったりしている現状がある（谷・大坊，2008a）。

学校教育の場の児童生徒を対象にした教員のユーモア尺度は，牧野（1997）が作成した尺度を，越・櫻井（2008）が児童用に修正しその一部を使用して作成している。しかし，越・櫻井（2008）の作成したユーモア表出測定尺度は，信頼性と妥当性についての検討がなされていない。また，上田・小林（2008）は上野（1993）と宮古・上野（1996）のユーモア尺度を参考に教員のユーモア尺度を作成しているが，そこには攻撃的ユーモア志向性尺度項目を取り入れない。その理由として，上野（2003）の研究において，「攻撃的ユーモア」が社会的規範からの逸脱と関連することが明らかにされており，教員のユーモアに当てはまらないためとしている。だが，文部科学省（2008）の提言「教員の資質能力の向上に関する基本的な考え方」において，「教員の中には（一部略），児童等の心を理解する能力や意欲に欠け，学級経営や生徒指導を適切に行うことができない者等が存在することも事実である」の部分からも，攻撃的ユーモアが社会的規範からの逸脱と関連する可能性があるとはいえ，実際には攻撃的なユーモアを児童生徒に発している教員の存在等が推察されることから，小中学生の「学校生活を満足させる」教員の行動の内容を考える際には，倫理上の問題を踏まえたうえで，やはり攻撃的ユーモアを含めて検討することは必要になると思われる。つまり，児童生徒の「学校生活を満足させる」ことに寄与する「教員のユーモア」のあり方を検討する試みは，今後の研究が期待される状態であると考えられる。

以上から，本研究は児童生徒の「学校生活を満足させる」ことに寄与する「教員のユーモア」のあり方の検討を試みるものである。そこでまず，教員のユーモアに対して児童生徒がどのような認知をするのかを測定する尺度を作成することを目的とした。その際，「教員のユーモア」のプラス面とマイナス面との両面を合わせて検討できる項目を作成することにした。そうすることで，児童生徒の「学校生活を満足させる」ことに，より寄与する「教員のユーモア」のあり方を提起できると判断したからである。

【方　法】

調査時期　2013年6月に調査を実施した。

調査対象　首都圏の公立小学校1校342名（男子181，女子161名），公立中学校1校435名（男子223，女子212名）を調査の対象とした（Table 1-1，1-2）。

手続き　各校長に調査依頼をし，依頼後1ヶ月以内の実施を期限として回収した。調査用紙は本調査が学校の成績に関係がないこと，担任の教員および友達に回答の内容が公開されることがないことを明示した。さらに担任教員には，実施の手順・注意事項のプリントの通りに実施することを依頼し，児童生徒の回答用紙は渡した封筒に入れ，その場で密封してもらい，児童生徒に余計な不安がかからないよう配慮した。

さらに，現職教員を対象に作成された尺度の内容妥性を検討するために，抽出された項目ごとに質問紙調査を行った。

測定用具　教員のユーモア行動測定尺度

児童生徒が，教員が表出するユーモアをどのように認知しているかを測定するために，先行研究（上野，1993；宮戸・上野，1996）を参考に，新たに尺度を作成した。先行研究で用いられていた尺度は大学生をはじめ成人以上の被験者を想定して作成されていること，項目内容が小中学校の学校場面に限定されていないことなどがその理由であった。そこで，教育心理学を専門としている大学教員2名と教育心理学を専攻している大学院生5名の計7名で，先行研究の尺度の項目内容

Table1-1 調査対象者の属性（小学校）

		小学生				
		3年	4年	5年	6年	合計
性別	男子	37	55	41	48	181
	女子	43	41	36	41	161
合計		80	96	77	89	342

Table1-2 調査対象者の属性（中学校）

		中学生			
		1年	2年	3年	合計
性別	男子	74	60	89	223
	女子	73	70	69	212
合計		147	130	158	435

を小中学校の学校場面に置き換え，さらに小中学校の学校場面で想定される内容を加えて質問項目を作成した。質問内容については学校教育場面で適切であるか，文言が児童生徒に理解可能かどうかという点に留意した。小学校版中学校版ともに，評定は「1：まったくない」から「5：よくある」までの5件法である。

【結 果】

1．教員のユーモア行動測定尺度の因子分析結果

教員のユーモア行動測定尺度は，最尤法・Promax回転による因子分析を行った。因子負荷量が.40に満たない項目を削除し，再度因子分析を行った。固有値の推移と解釈可能性から3因子解を採用し，各因子6項目ずつの18項目を最終的に採択した。結果をTable 2-1，2-2に示す。小学生版，中学生版ともに，第1因子は「先生はみんなを笑わせるようなことを言うことがある」などの項目が高い負荷を示し，「楽しさ喚起ユーモア」の因子と解釈した。第2因子は「先生は人をネタにきついことを言って笑わせることがある。」などの項目が高い負荷を示し，「皮肉・風刺ユーモア」の因子と解釈した。第3因子は「先生はみんなを励ますために笑わせてくれることがある。」などの項目が高い負荷を示し，「元気づけユーモア」の因子と解釈した。下位尺度の信頼性係数は，小学生用が「楽しさ喚起ユーモア」がα＝.92，「皮肉・風刺ユーモア」がα＝.90，「元気づけユーモア」がα＝.90，中学生用が「楽しさ喚起ユーモア」がα＝.95，「皮肉・風刺ユーモア」がα＝.95，「元気づけユーモア」がα＝.92であり，教員のユーモア行動測定尺度の高い信頼性が確認された。

2．教員のユーモア行動測定尺度の学校種別および性別の得点

教員のユーモア行動測定尺度の各下位因子について，性別（2）×学校段階（2）の2要因分散分析およびTukey法による多重比較を行った（Table 3）。結果，第1因子「楽しさ喚起ユーモア」と第3因子「元気づけユーモア」ともに交互作用が有意であり，女子の場合において小学校が中学校より有意に高い得点を示した。また第2因子「皮肉・風刺ユーモア」は性別の主効果が有意であり，男子が有意に高い得点を示した。したがって，性別，学校種別の各因子得点の差異が明らかになった。

3．尺度の内容妥当性の検討

作成された教員のユーモア行動測定尺度の妥当性は，A大学の大学院に現職派遣で在職している小中学校の教員，およびすでに修了した現職の教員のべ45名（小学校23名，中学校22名）に本尺度の説明をし，①本尺度の質問内容の妥当性，②24項目の内容と学校現場での実態との妥当性について，質問紙法で調査した。回答は5件法（5：とてもあてはまる，4：だいたいあてはまる，3：どちらともいえない，2：あまりあてはまらない，1：全くあてはまらない）で，項目ごとに回答者の平均値を算出した。各項目の平均値が2以下の項目は不採択とすることにした。結果，すべての

Table 2-1 教員のユーモア行動測定尺度（小学校）の因子分析結果（n=342）

Item	*F*1	*F*2	*F*3
*F*1 楽しさ喚起ユーモア（α=.92）			
1 先生はみんなを笑わせるようなことを言うことがある。	.97	-.04	-.12
2 先生は単純でおもしろいことを言うことがある。	.97	-.00	-.08
5 先生は日々の何気ないことでも，楽しくおかしくみんなに話すことがある。	.76	.05	.06
8 先生は教室内でみんながもっと楽しくなるように盛り上げていると思う。	.69	-.08	.20
6 先生はみんなに心温まる笑い話をすることがある。	.66	.01	.17
4 先生はギャグやダジャレをいうことがある。	.60	.10	.05
*F*2 皮肉・風刺ユーモア（α=.90）			
13 先生は人をネタにきついことを言って笑わせることがある。	.02	.94	-.04
12 先生はみんなに悪口に近い笑い話をすることがある。	-.09	.89	-.03
15 先生は人を傷つけるような笑いをとることがある。	-.12	.85	-.01
14 先生は変わっている知人の話しを笑いのネタにすることがある。	.03	.82	.03
11 先生はみんなに過激な冗談を言うことがある。	.26	.67	-.05
16 先生は教室内でまじめな話をちゃかすことがある。	-.00	.59	.10
*F*3 元気づけユーモア（α=.90）			
19 先生はみんなを励ますために笑わせてくれることがある。	.07	-.17	.92
20 先生はみんなの気持ちを楽にさせるような面白い話を言うことがある。	.21	-.13	.78
18 先生は人をなぐさめるために，自分の失敗をおもしろおかしく語ることがある。	-.06	.11	.77
21 先生は嫌なことがあっても笑い飛ばしてくれる。	.02	.07	.77
17 先生はちょっと寂しそうな人がいると冗談などを言って笑わせることがある。	.02	.31	.53
24 先生は気がめいるようなとき，面白い話をして自分で自分を励ますことがある。	.07	.31	.44
因子間相関 *F*1	—	.262	.697
*F*2		—	.461
*F*3			—

Table 2-2 教員のユーモア行動測定尺度（中学校）の因子分析結果（n=435）

Item	*F*1	*F*2	*F*3
*F*1 楽しさ喚起ユーモア（α=.95）			
2 先生はみんなを笑わせることをいうことがある。	.99	-.04	-.11
1 先生はみんなを笑わせるようなことを言うことがある。	.96	-.01	-.09
5 先生は日々の何気ないことでも，楽しくおかしくみんなに話すことがある。	.85	.06	.05
6 先生はみんなに心温まる笑い話をすることがある。	.84	.02	.06
8 先生は教室内でみんながもっと楽しくなるように盛り上げていると思う。	.72	-.05	.19
4 先生はギャグやダジャレをいうことがある。	.55	.09	.27
*F*2 皮肉・風刺ユーモア（α=.95）			
12 先生はみんなに悪口に近い笑い話をすることがある。	.01	.99	-.08
13 先生は人をネタにきついことを言って笑わせることがある。	.02	.96	-.05
15 先生は人を傷つけるような笑いをとることがある。	-.05	.91	-.01
11 先生はみんなに過激な冗談を言うことがある。	.12	.84	-.02
14 先生は変わっている知人の話しを笑いのネタにすることがある。	.08	.84	.00
16 先生は教室内でまじめな話をちゃかすことがある。	-.18	.70	.26
*F*3 元気づけユーモア（α=.92）			
19 先生はみんなを励ますために笑わせてくれることがある。	.05	-.16	.96
20 先生はみんなの気持ちを楽にさせるような面白い話を言うことがある。	.18	-.16	.86
18 先生は人をなぐさめるために自分の失敗をおもしろおかしく語ることがある。	-.06	.11	.80
21 先生は嫌なことがあっても笑い飛ばしてくれる。	-.03	.22	.67
24 先生は気がめいるようなとき，面白い話をして自分で自分を励ますことがある。	.11	.18	.56
17 先生はちょっと寂しそうな人がいると冗談などを言って笑わせることがある。	.27	.03	.54
因子間相関 *F*1	—	.074	.663
*F*2		—	.363
*F*3			—

Table 3　下位尺度の性差と学校差による各因子得点の分散分析

	男子		女子				
	小学校 (n=181)	中学校 (n=223)	小学校 (n=161)	中学校 (n=212)	性差	学校差	交互作用
楽しさ喚起ユーモア	21.30 (7.10)	20.23 (6.66)	22.50 (6.69)	18.55 (6.85)	0.24 *n.s.*	25.80***	8.56**
皮肉・風刺ユーモア	13.15 (6.75)	12.42 (6.14)	11.59 (5.90)	11.31 (5.31)	9.38**	1.35 *n.s.*	0.27 *n.s.*
元気づけユーモア	16.58 (7.16)	16.31 (6.18)	17.34 (6.92)	14.99 (5.69)	0.35 *n.s.*	7.90**	4.97*

（　）内は標準偏差.　*p <.05,　**p <.01,　***p <.001

項目で2以下の項目はなく，18項目についての①の平均値は4.22で，②については4.37であった。以上から，教員のユーモア行動測定尺度の内容妥当性はあると判断された。

【考　察】

1．小学生版・中学生版の教員のユーモア行動測定尺度の因子構造

本研究は，教員の表出するユーモアに対して児童生徒がどのように認知をするのかについて検討した。教員のユーモア行動測定尺度の因子分析の結果，小学生版も中学生版も教員のユーモアは「楽しさ喚起ユーモア」「皮肉・風刺ユーモア」「元気づけユーモア」の3つに分類された。各因子の信頼性においても，各下位尺度で高い内的一貫性があり，内容的妥当性も確認された。この結果は，上野（1993）の遊戯的ユーモア志向尺度，攻撃的ユーモア志向尺度，および宮戸・上野（1996）の支援的ユーモア志向尺度を統合した内容に近いと思われる。上田・小林（2008）は「攻撃的ユーモア」が社会的規範からの逸脱と関連することを理由に除外していたが，本研究結果からは，「皮肉・風刺ユーモア」が抽出され，実際に児童生徒は上野ら（1993, 1996）の「攻撃的ユーモア」にあたる教員のユーモア表出を認知していることが明らかになった。したがって，倫理上の問題に十分配慮することを前提に，教員の表出するユーモアのプラス面とマイナス面について検討する上で，本尺度は児童生徒の「学校生活を満足させる」ことに寄与する教員の指導行動のあり方を導くことにつながると考えられる。

2．教員のユーモア行動測定尺度の学校種別および性別の得点

「楽しさ喚起ユーモア」と「元気づけユーモア」において，小学校が中学校と比較して有意に高い得点を示した。これは教員の行動から受ける影響として共通点のある教員のユーモア行動に関して，小学校段階の子どもたちは一見楽しい，あるいはおもしろいと感じることに魅力を感じ，感覚的にユーモアを認知しているという上田・小林（2008）の指摘を支持し，小学生が中学生と比較して高い得点を示したことにつながっていると考えられる。また，女子の場合において小学生が中学生より有意に高い得点を示したのも，この関連のなかで考えることができると思われる。

ただし，唯一「皮肉・風刺ユーモア」において，小学校・中学校ともに女子よりも男子の方が，有意に得点が高かった。この理由として，女性は男性よりも遠回しの批判である皮肉や風刺などのブラックユーモアを楽しいと思わない傾向があり，男性はその志向が高いことが指摘されている（牧野，1998；Martin et al., 2003；谷・大坊，2008b；Yip & Martin, 2006）ことと一致している。また，教員の潜在的な影響力においての男女差の一つとして，「親近・明朗性」，「自信・一貫性」，「受容」，「授業力」については女子が大きく認知しており，男子は「威圧感」，「罰」を大きく認知していることが指摘されている（三島・淵上，2010）。これらのことが，皮肉・風刺ユーモアの認知の性差に関連している可能性が考えられる。

3. 教員の指導行動としてのユーモア表出のあり方

教員のユーモアの表出の中で，楽しさ喚起ユーモアと元気づけユーモアは児童生徒との関係性を和ませ緊張を緩和することが想定される。したがって，教員が指導行動として意識して楽しさ喚起ユーモアと元気づけユーモアを取り入れることで，児童生徒の「学校生活を満足させる」点において効果的であることが考えられる。

それに対して，本研究で抽出された皮肉・風刺ユーモアに類似する攻撃的ユーモアについては，先行研究でいくつかの指摘がなされている。教員による攻撃的ユーモアは学級内不和を作りだし，攻撃的なユーモアは表出者への認知を否定的にし，関係を悪化させる（越・櫻井，2008）という指摘もあり，教員が指導行動として攻撃的ユーモアを取り入れることには疑問が提起されている。ただし，中学生を対象に熊崎・山守・五十嵐（2014）は，攻撃的なユーモアの感知力の学年差について調査をし，3年生が1年生に比べて有意に得点が高いという結果を示している。これは，中学1年生はあいまいな攻撃的ユーモアで被害を受けた場合に，相手の敵意を想定し，不満や怒りなどの感情が喚起されやすく，学年が進むにつれて減少する（戸田・渡辺，2012）ため，3年生の方が攻撃的ユーモアを笑いとして感知しやすいと考えられる。伊藤・本多・渡邊（2011）も，作者が社会に対する矛盾や葛藤を表現される社会風刺に含まれる攻撃的ユーモアをとりあげて，攻撃性をユーモアとして受容し笑うためには，その作者の意図を読み取り，攻撃的ユーモアにより惹起される不快感を一歩下がって客観的に捉え直す能力が求められるため，攻撃的ユーモアを感知し楽しめる経験や年齢，学年が上がることで，相手に対する共感性と親和性が上がるフィルターとして攻撃的ユーモアを捉えることができるとしている。つまり，ある程度の発達段階であれば，皮肉・風刺ユーモアも共感性と親和性を高めるプラス面もあることが示唆され，一方的に否定されるものではないと思われる。しかし，教員が指導行動として皮肉・風刺ユーモアを取り入れる場合は，対象となる児童生徒の発達段階や状況など，かなり留意する点が多いと思われる。

今後，さらに小中学校の教員のユーモア行動測定尺度について検討を行い，本研究から見出された教員の3つのタイプのユーモア行動と児童生徒の学級生活の満足感やスクールモラールとの関連などについて実証的に検討すること，また学校種ごとに学年による差異が見られるか否かを検討することで，教員が指導行動としてより効果的にユーモアを取り入れる指針が見出されると思われる。今後の課題としたい。

【引用文献】

古市裕一 2004 小・中学生の学校生活享受感情とその規定要因 岡山大学教育学部研究集録，**126**，29-34.

伊藤理絵・本多 薫・渡邊洋一 2011 攻撃的ユーモアを笑う 山形大学人文学部研究年報第8号，215-227.

熊崎有望・山守由純・五十嵐哲也 2014 中学生による「教師のユーモア表出」認知と中学生自身のユーモア感知力 愛知教育大学紀要，93-101.

越 良子・櫻井弥生 2008 ユーモアが学級内の局所的及び対局的対人関係と学級風土に及ぼす影響 上越教育大学研究紀要，**27**，73-83.

牧野幸志 1997 ユーモア行動の構造に関する研究 広島大学教育大紀要 第一部 心理学，**46**，41-48.

牧野幸志 1998 ユーモア・センス尺度の作成 広島大学教育学部紀要第一部心理学，**47**，37-46.

Martin, R. A., Puhlik-Doris, P., Larsen, G., Gray, J., Weir, K. 2003 Individual differences in uses of humor and their relation to psychological well-being: Development of the Humor Styles Questionnaire. *Journal of Research in Personality*, **37**, 48-75.

三島美砂・淵上克義 2010 学級集団,児童・生徒個人に及ぼす教師の潜在的な影響力 岡山大学大学院教育学研究科研究集録 **145**，19-29.

宮戸美樹・上野行良 1996 ユーモアの支援的効果の検討 —支援的ユーモア志向尺度の構成— 心理学研究，**67**，270-277.

文部科学省 2003 学校教育に関する意識調査

文部科学省 2008 指導が不適切な教員に対する人事管理システムのガイドライン

谷 忠邦・大坊郁夫 2008a ユーモアと社会心理学的

変数との関連　発達心理学研究，**19**，57-68.
谷 忠邦・大坊郁夫 2008b ユーモアと社会心理学的変数との関連についての基礎的研究 対人社会心理学研究，**8**，129-137.
戸田まり・渡辺恭子　2012　あいまいな攻撃に対する処行動の発達:社会的情報処理の視点から　発達心理学研究，**23**，214-223.
上田明日実・小林朋子　2008　小学生の学校の楽しさに影響を与える教師のユーモア行動に関する研究 静岡大学教育学部教育実践総合センター紀要，**15**，125-132.
上野行良　1992　ユーモア減少に関する諸研究とユーモアの分類化について　社会心理学研究，**7**，112-120.
上野行良　1993　ユ-モアに対する態度と攻撃性及び愛他性との関係　心理学研究，**64**，247-254.
上野行良　2003　ユーモアに対する態度と対人意識との関連　福岡県立大学紀要，**11**，39-49.
Yip, J. A., & Martin, R. A. 2006 Sense of humor, emotional intelligence, and social competence. *Journal of Research in Personality*, **40**, 1202-1208.

(2014年12月23日 受稿，2015年2月9日 受理)

Development of Scale to Measure the Behavior of Teacher's Humor in the Elementary School and in the Junior High School

Akihiro Kawamura (Graduate School of Education, Waseda University),
Yuka Musashi(Morioka University),
Shigeo Kawamura (Waseda University)

The purpose of this study was to construct a scale that measures how student recognize teacher's humor, to examine the effectiveness of teacher's humor usage as a contribution to students' satisfaction with their school life. The participants were 342 elementary school students (male181, female161) in a public elementary school and 435 middle school students (male223, female212) in a public junior high school. As a result, a three-factor structure is revealed in both case of elementary school and junior high school; those were "enjoyment-evoking humor", "ironic, satirical humor" and "encouraging humor". The α factors for elementary school students were .90–.92 and the α factors for junior high school students were.92–.95, both of which were confirmed high reliability coefficient of subscale. From the above results, a scale that measures the usage of teacher's humor in elementary school and in junior high school was newly created.

Key word : teacher's humor, school life satisfaction, elementary school, junior high school